



みんなのひろば

出 会 い

箕島 郁代



(新 栄)

縁あって私が大山町に嫁いで25年、数々の素晴らしい出会いがありました。

まずは自然との出会いです。美しい日本海と雄大な大山、豊かな自然に恵まれたこの町で結婚し、子育てできるなんて、な

んと私は幸せなんだろうと思いました。また仕事柄日々多くの人たちと出会います。無邪気で可愛い小さな子どもたちから、人生経験豊富な年配の方々まで、どの年齢層の人たちからも毎日たくさん元気や力をもらって

頑張っています。子どもたちも成長し、一社会人となった今、25年間の多くの出会いに感謝しながら、これからの自分が少しでも何かこの町の役に立てたらいいなと思う今日この頃です。感謝。

人情の大山町をめぐして

中村 隆行



(樋 口)

素潜り漁を仕事に、七年が経ちました。実家のさいたま市では、大勢の中の一人でしたが、大山町では、個性的な生活が送られて感謝しています。これも偏ひとよに荒れると厳しい日本海と、恵みの大山、町内の皆様のおかげです。

漁師として、たくさん失敗して悩み、よく考えてよりよい答えをだします。まだまだ未熟ですが、少しずつ理解し、本質的なことが見えてきました。近年、海の資源が減少してきています。大山町では、サザエ・アワビな

どの稚貝放流に助成をしてくれます。回復させるためには、水と土と緑がバランスよく綺麗になっていくことが大切です。自然豊かで、人情味ある町づくりをめぐして地域に貢献していきたいです。

健やかな姿「見守りたい」

河本 昌士



(西 坪)

昨年「子ども見守り隊」の一人として、朝夕、国道の交差点で、通学中の子どもたちに「おはよう」「おかえり」と声をかけています。

私は、戦後まもないころ交通事故に遭った体験があります。子どもの事故の話聞く度、当時の

慰謝料がわずか一握りのサヤエンドウだったことを思い出し、地域の子どもの安全に少しでもお役に立てればと始めました。元気にあいさつを返してくる子、最初は黙って通り過ぎるだけだったのに、いつの頃からか、小さな声で「おはようご

ざいます」と言ってくれるようになった子。雨の日も、雪の日も、自転車をこいで登校する中学生。彼らの笑顔、ひたむきな姿に、私もエネルギーをもらっています。

あとがき

山口町長や私たち議員にとっても、4年任期の締め年度となる予算が議会で議決された。

観光交流については町民の関心が高く、議会も幾度となく町長と意見を交換し、多数決で決定の運びとなった。ゴーと決まった以上、

町民が一丸となって知恵を出し、汗をかき、是非とも成功したいものだ。

ところで道路特定財源の暫定税率が3月末で失効となった。そのことにより大山町では約1億7千万円の財源不足となり、計画中の道路新設・改良工事の見通しがたない。この道路特定財源は、地方再生のために必要不可欠な税だと思ふのは、私だけだろうか。(註)

《発行責任者》

議長 鹿島 功

《広報委員会》

- 委員長 西尾 寿博
- 副委員長 遠藤 幸子
- 委員 岡田 聡
- 委員 諸遊 環司
- 委員 吉原美智恵
- 委員 近藤 大介